「本当のあなたに生きる」

～騙されないように～　　エペ１：１－１０

騙されていませんか？

神様は私たち一人ひとりに個性、カラーを持たせて創造してくださいました。一人ひとりが違います。しかし、世は流行の服で皆同じようにさせようとします。もしも、あなたが自分にぴったりの服装があるにもかかわらず、安心を得るために周りの真似をしているならばあなたは騙されているかもしれません。服装はひとつの例ですが、今日、自分の本来の輝きを忘れてはいないか確認し、もし騙され失っているならば取り戻さなければいけません。

私たちが自己中心になる理由

私たちは本来の自分の姿で生きるとき輝くことができます。しかし、私たちは自分と他人とを比較し、自分が傷つけられないためにはどうしたらいいかを考えてしまいます。誰もが自己中心になりたいとは思っていないのに、そこから自己中心が生まれます。では、自己中心にならないためには具体的にどうしたらいいのでしょうか。それはダビデのように『いつも私の前に主を置く』ことが必要です。あなたは今、誰を目の前に置き、何を自分の心の中心としているでしょうか。神様を目の前に置くこと、イエス様の生き様に倣って生きようとするならば、私たちは決して自己中心にはなりません。しかし、願いはあるのに私たちは騙されてしまいます。なぜなら、今までこうやって生きていたという古い価値観があるからです。では、あなたが「これがこの世の常識、当たり前」と思っていることは世界共通でしょうか。決してそうではありません。自分たちが狭い世界でできたルールが正しいと思い込んでいることもあるからです。世界に目を向ければ国によっても価値観が大きく違います。そんな人たちが集まってそれぞれ「自分こそが正しい」とするならば当然人々はぶつかり合い、そこから争いも生まれます。ですから神様はそんな私たちのために、旧約の時代から今日に至るまで、どう生きるべきかのルールを教えてくださっています。今日改めて、あなたを良くし、正しい価値観を与えてくださる神様の法則に戻らなければいけません。

言葉に注意

バベルの塔が建築された時代、増え広がった民は自分さえ良ければよい、ひいては神のようになろうと考えるようになりました。愛し合うために創造した民がそのようなことで争う姿を見て、神様はそれぞれの言葉を分からなくさせ地の全面に散らされました。神様は言葉で一致できなくなった私たちを心で一致できるように計画されたのです。それはただ神様の豊かな恵みによるもの（エペ1:7）です。私たちはどれだけ良い事を思っていても言葉によって人を陥れてしまうことがあります。ですから私たちは言葉をコントロールしなければいけません。
神様は本当に愛されたことを知った私たちに、口先だけでなく、たとえ相手が願ったことをしてくれなくとも、愛することができるようにされました。そのためにイエス様をこの地に送られました。ですから私たちは言葉によって生きるのでなく、神様の思いにたって生きなければいけません。クリスチャンは毎日が決断の日々です。どうして！？と思えるような状況のとき、どのような決断をして生きるのかをイエス様の生き様を通して自らで感じていかなければいけません。なぜなら私たちは神様のからだの一部を担うようにつくられたからです。もし、あなたが自己中心な生き方をし、あたかも一人で大きくなった、自分は一人で生きていると勘違いしているならば、今日それをやめなければいけません。例えば私たちは外国の争いをみたとき、ひどいことをしていると感じ、正しいことがなにかも分かります。しかし、自分の身近に起こったことではそれに気付かずに、してはいけないことをしていないでしょうか。私たちは感情が高まると常識的に考えることができなくなります。確かに焦るとろくな事をしないし、言ってはいけないことを平気で言ってしまいます。こうしてあなたは騙されていませんか？私たちは感情的になっているから仕方がないで終わらせず、自己中心という作り上げられた偽りの自分を捨てて、その時何をするべきかを神様に聞かなければいけません。

騙されず正しく生きるには

アメリカにジョン・ウッデンというバスケットボールの監督がいました。彼は自分がクリスチャンとしてどのように影響を与えていくかを考え実践した人で、彼を通して多くの人が彼に学びました。彼の考えはまず自分自身に忠実に生きるという父親の教えから始まります。では自分の決めたことに忠実に生きるとはどういう生き方でしょうか。それは、自分がすると決めたことをし、やらないと決めたことをしないことです。それ以外にも彼はいつも神様とつながっていられる環境にその身を投じていました。そして逆境こそが人が成長する時であるから、自分に対していつもイエスマンではなく、あなたがより良くなるためにいつも言い争ってくれる賢い人をそばに置くようになどと伝えました。そんな彼は成功の定義を「成功とは、自分がなれるベストの状態になるために最善を尽くしたと自覚し、満足することによって得られる心の平安のことである」としています。成功は形でなく心の状況であり、最善を尽くしたことが成功であるというのです。なぜなら結果は神様の領域で、あなたが成らせられるものではないからです。自分に忠実に生きベストなことを積み重ねて行う。そのためにそれを成し遂げさせてくださる方に目を向ける必要があるのです。

１　心の目で見る

あなたは目の前に起こることを何によって判断しているでしょうか。見えるものに目を留めると私たちはその状況に右往左往してしまいます。ですから目を閉じて心の目で見ていきましょう。サウロだったときのパウロは、当時の社会の中では議員や先生と呼ばれるような高い地位にあり、正義を振りかざし生きていました。イエス様を信じる人々を迫害することも当時のユダヤ人たちのうちでは正しいとされていたことを行っていたのです。彼のように私たちも周りの人がやっているから、国がやっているからそれをする、それが正しいことだ、当たり前のことだと思い込んでいる事はないでしょうか。ひとつひとつのことを心の目で判断し、神の良心で正しいかどうかを判断して行いましょう。

２　きずとしみを取り去る

パウロはサウロだった頃の行為を、目が見えなくなって初めて冷静に見つめることができるようになりました。彼は神様に導かれ、立ってまっすぐという所に行き心の傷が癒されるように祈ってもらうことができました。それによって主を認めることができました。きずとしみを取り去ったことで、今までの自分の生き方が間違いであったと気づき、主を認め悔い改めることができました。ですから私たちも過去の傷や今まで作り上げられた価値観を取り除き、正しい目で判断できるように神様を求めましょう。

３　判断と決断

神様は私たちを日々新しくしてくださいます。そこには神様が教えてくださる判断基準に合わせること、自分自身の過去の生き方を完全に捨て去ることが必要です。もし、教会に来ているときは人を愛し赦しているけれど、教会を出たらそれができないというのでは、肉に死にきれていない古い自分があるといえます。神様は『見よ。全てが新しくなった』といわれました。そのみことばを信じ、一人ひとりが小さなことから日々何が正しいかを判断し、自分がどう生きるか決断していきましょう。

まとめ

私たちは日々自分のために生きるのではなく、誰かのために生きたい、置かれた場所で咲きたいと願っています。それには小さな決断と判断が必要となってきます。自分自身の本当の姿はどのようなものか、日々神様に求めましょう。人間的な思いを捨て去り、どんな逆境のときも逃げることなくイエス様のことばに生きようとする私たちを神様は支えてくださいます。目に見えるものに騙されることなく、命がけのイエス様のされたことを無駄にしない目的に生きるクリスチャンでありましょう。

（要約者：平澤　瞳）